

市民救命士の養成に関する実施要綱運用細則

(目的)

第1条 この運用細則は、市民救命士の養成に関する実施要綱(以下「要綱」という。)第30条に基づき、必要な事項を定める。

(市民救命士等の講習カリキュラム)

第2条 要綱第3条の市民救命士講習、救急インストラクター講習及び応急手当指導員講習のカリキュラムを細則別表1のとおり定める。

(応急手当web講習を利用した事前学習の要件)

第3条 要綱第3条第2項で定める市民救命士講習の種別について、応急手当web講習による事前学習を利用する場合は以下の各号の要件を満たすこと。

- (1) 神戸市消防局が公開している応急手当web講習サイトにより事前学習を実施すること。
- (2) 応急手当web講習受講後に発行される受講証明書を印刷のうえ、実技講習当日に持参すること。ただし、携帯型端末等で受講した場合には、受講証明書発行画面を提示することでこれに変えることができる。

(市民救命士等の再講習カリキュラム)

第4条 要綱第6条第4項の市民救命士再講習、要綱第11条第4項の救急インストラクター再講習及び要綱第17条第2項の応急手当指導員再講習のカリキュラムを細則別表2のとおり定める。

(応急手当普及員認定証の交付の要件)

第4条の2 要綱第9条第2項の要件について、次のいずれかに該当するものとする。

- (1) 医師法(昭和23年7月30日)に定める医師の免許を有すること。
- (2) 保健師助産師看護師法(昭和23年7月30日法律第203号)に定める保健師、助産師、看護師及び准看護師の免許を有すること。
- (3) 救急救命士法(平成3年4月23日)に定める救急救命士の免許を有すること。

(民間救急講習団体の要件)

第5条 要綱第13条第2項の要件について、次のいずれかに該当する救急インストラクターが3名以上在籍しているものとする。

- (1) 要綱第10条第1項の市民救命士講習(救命入門コースは除く。)について、応急手当指導員立会いの市民救命士講習を2回以上かつ6時間以上の指導実績を有すること。
- (2) 前号の指導実績を有する救急インストラクターが立会いのもと、前号の市民救命士講習を2回以上かつ6時間以上の指導実績を有すること。
- (3) 教育職員免許法(昭和24年5月31日法律第147号)第4条第2項に定める養護教諭の専修免許状、一種免許状又は二種免許状を有すること。
- (4) 教育職員免許法(昭和24年5月31日法律第147号)第4条第5項及び第6項に定め

る高等学校教諭、中学校教諭又は小学校教諭の保健体育又は体育の免許状を有すること。

(講習実施時の必要経費の上限)

第6条 要綱第29条第3項の市民救命士講習実施時の必要経費の上限は、受講者一人あたり2,000円とする。

(交通費の支給)

第7条 消防長又は消防署長が開催する市民救命士講習会等において、応急手当指導員等に協力を依頼した場合は、交通費を支給することができる。

附 則

この運用細則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この運用細則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この運用細則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この運用細則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この運用細則は、平成23年7月1日から施行する。

附 則

この運用細則は、平成24年1月1日から施行する。

附 則

この運用細則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この運用細則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この運用細則は、令和2年10月1日から施行する。

附 則

この運用細則は、令和4年4月1日から施行する。

別表第1（第2条関係）

(1) 市民救命士講習（救命入門コース・90分コース）

1 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胸骨圧迫を救急車が現場に到着するのに要する時間程度できる。 ・ 自動体外式除細動器（AED）を使用できる。
2 基本的な実施要領	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技を主体とした講習とする。 ・ 訓練用資器材一式に対して受講者は5名以内とすることが望ましい。 ・ 指導者1名に対して受講者は10名以内とすることが望ましい。

項 目		細 則	時 間
応急手当の重要性		応急手当の目的・必要性 （心停止の予防等を含む）等	90分
応急手当の 実習（主に 成人に対する 方法）	心肺蘇生法 （実技及び呈 示）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反応の確認・通報の手順 ・ 胸骨圧迫要領 ・ 気道確保要領（展示又は体験） ・ 人工呼吸法（展示又は体験） ・ シナリオに対応した反応の確認から胸骨圧迫まで 	
	AEDの使用方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ AEDの使用方 法 ・ AEDの実技要領 	

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 45分を1単位として分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内） ・ 普通救命コースIの分割講習（1単位）として実施することを可能とし、分割時の実技講習カリキュラムは別表第1第3号で定める。（分割可能期間は概ね1年以内）
-----	--

(2) 市民救命士講習（救命入門コース・45分コース）

1 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・胸骨圧迫を救急車が現場に到着するのに要する時間程度できる。 ・自動体外式除細動器（AED）を使用できる。
2 基本的な実施要領	<ul style="list-style-type: none"> ・実技を主体とした講習とする。 ・訓練用資器材一式に対して受講者は2名以内とすることが望ましい。 ・指導者1名に対して受講者は10名以内とすることが望ましい。

項 目		細 則	時 間	
応急手当の重要性		応急手当の目的・必要性 (心停止の予防等を含む) 等	45分	
応急手当の 実習（主に 成人に対す る方法）	心肺蘇生法	基本的な心肺蘇生法 （実技及び呈示）		<ul style="list-style-type: none"> ・反応の確認・通報の手順 ・胸骨圧迫要領
		AEDの使用方 法		<ul style="list-style-type: none"> ・AEDの使用方 法 ・AEDの実技要領

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・普通救命コースⅠの分割講習(1単位)として実施することを可能とし、分割時の実技講習カリキュラムは別表第1第3号で定める。(分割可能期間は概ね1年以内)
-----	--

(3) 市民救命士講習（救命入門コース・実技講習カリキュラム）

項 目		細 則	時 間	
応急手当の重要性		<ul style="list-style-type: none"> ・市民救命士の趣旨 ・応急手当の目的・必要性（心停止の予防等を含む） ・感染防止の意義と方法 	5分	
応急手当の実習（主に成人に対する方法）	心肺蘇生法	基本的な心肺蘇生法（実技） <ul style="list-style-type: none"> ・反応の確認・通報の手順 ・胸骨圧迫要領 ・気道確保要領 ・人工呼吸法 ・シナリオに対応した心肺蘇生法 	115分	
		異物除去法		<ul style="list-style-type: none"> ・背部叩打法 ・ 腹部突き上げ法
		AEDの使用法		<ul style="list-style-type: none"> ・AEDを用いた心肺蘇生法(一人法)の効果確認
合計時間			120分	

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・救命入門コース（90分コース及び45分コース）を受講後、概ね1年以内に実技講習を受講した場合は、普通救命Iコースを受講したものとし、修了証を交付することができる。 ・訓練用資器材一式に対して受講者2名以内で講習を実施でき、質を担保できる場合は、応急手当指導員の判断により、講習時間を最大90分に短縮できるものとする。
-----	--

(4) 市民救命士講習（普通救命コースⅠ・Ⅱ）

1 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生法（主に成人を対象）を、救急車が現場に到着するのに要する時間程度できる。 自動体外式除細動器（AED）について理解し、正しく使用できる。 異物除去法及び大出血時の止血法を理解できる。
2 基本的な実施要領	<ul style="list-style-type: none"> 実技を主体とした講習とする。 指導者1名に対して受講者は10名程度とすることが望ましい。ただし、受講者数及び受講者の応急手当に関する知識・技術の程度によって適宜増減することを妨げない。

項 目		細 則	時 間	
応急手当の重要性		<ul style="list-style-type: none"> 市民救命士の趣旨 応急手当の目的 応急手当の必要性（心停止の予防等を含む） 感染防止の意義と方法 	15分	
応急手当の実習（主に成人に対する方法）	心肺蘇生法	基本的な心肺蘇生法（実技）	<ul style="list-style-type: none"> 反応の確認・通報の手順 胸骨圧迫要領 気道確保要領 人工呼吸法 シナリオに対応した心肺蘇生法 	165分
		AEDの使用法	<ul style="list-style-type: none"> AEDの使用法 指導者による使用法の呈示 AEDの実技要領 	
		異物除去法	<ul style="list-style-type: none"> 背部叩打法、腹部突き上げ法 	
		効果確認	<ul style="list-style-type: none"> AEDを用いた心肺蘇生法（一人法）の効果確認 	
合計時間			180分	

備 考	<ul style="list-style-type: none"> 業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心肺停止者に対し応急の対応をすることが期待・想定される者を対象とする講習会（普通救命コースⅡ）については上記カリキュラムに加え60分の試験（実技・筆記）を実施し、客観的評価で80%以上を理解できたことを合格の目安とする。 60分間を1単位として分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内） 救命入門コースと併せた分割講習も可能とする。（分割可能期間は概ね1年以内） 応急手当web講習を利用した分割講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内とし、分割時の実技講習カリキュラムは別表第1第5号で定める） 訓練用資器材一式に対して受講者2名以内で講習を実施でき、質を担保できる場合は、応急手当指導員の判断により、講習時間を最大120分に短縮できるものとする。
-----	--

(5) 市民救命士講習（普通救命コースⅠ・Ⅱ）実技講習（web講習利用時）

項 目		細 則	時 間
応急手当の重要性		<ul style="list-style-type: none"> ・ 応急手当の目的・必要性 ・ web講習に関する質疑応答 	5分
応急手当の実習（主に成人に対する方法）	心肺蘇生法	基本的な心肺蘇生法（実技） <ul style="list-style-type: none"> ・ 反応の確認・通報の手順 ・ 胸骨圧迫要領 ・ 気道確保要領 ・ 人工呼吸法 ・ シナリオに対応した心肺蘇生法 	115分
		AEDの使用法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者による使用法の提示 ・ AEDの実技要領 	
		異物除去法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 背部叩打法、腹部突き上げ法 	
		効果確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ AEDを用いた心肺蘇生法（一人法）の効果確認 	
合計時間			120分

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心肺停止者に対し応急の対応をすることが期待・想定される者を対象とする講習会（普通救命コースⅡ）については上記カリキュラムに加え60分の試験（実技・筆記）を実施し、客観的評価で80%以上を理解できたことを合格の目安とする。 ・ 60分間を1単位として分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内） ・ 訓練用資器材一式に対して受講者2名以内で講習を実施でき、質を担保できる場合は応急手当指導員の判断により、講習時間を最大90分に短縮できるものとする。
-----	---

(6) 市民救命士講習（小児コース）

1 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生法（主に小児、乳児、新生児を対象）を、救急車が現場に到着するのに要する時間程度できる。 ・自動体外式除細動器（AED）について理解し、正しく使用できる。 ・異物除去法及び大出血時の止血法を理解できる。
2 基本的な実施要領	<ul style="list-style-type: none"> ・実技を主体とした講習とする。 ・指導者1名に対して受講者は10名程度とすることが望ましい。ただし、受講者数及び受講者の応急手当に関する知識・技術の程度によって適宜増減することを妨げない。

項 目		細 則	時 間
応急手当の重要性		<ul style="list-style-type: none"> ・市民救命士の趣旨 ・応急手当の目的 ・応急手当の必要性 ・小児・乳児の事故防止の必要性 ・感染防止の意義と方法 	15分
応急手当の実習（主に小児、乳児、新生児に対する方法）	心肺蘇生法	<ul style="list-style-type: none"> ・反応の確認・通報の手順 ・胸骨圧迫要領 ・気道確保要領 ・人工呼吸法 ・シナリオに対応した心肺蘇生法 	165分
	AEDの使用法	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDの使用法 ・指導者による使用法の呈示 ・AEDの実技要領 	
	異物除去法	小児、乳児の区分に応じた異物除去法（背部叩打法、腹部突き上げ法、胸部突き上げ法）	
合計時間			180分

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・60分間を1単位として分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内） ・応急手当web講習を利用した分割講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内とし、分割時の実技講習カリキュラムは別表第1第7号で定める） ・訓練用資器材一式に対して受講者2名以内で講習を実施でき、質を担保できる場合は、応急手当指導員の判断により、講習時間を最大120分に短縮できるものとする。
-----	---

(7) 市民救命士講習（小児コース） 実技講習（web講習利用時）

項 目		細 則	時 間
応急手当の重要性		<ul style="list-style-type: none"> ・ 応急手当の目的・必要性 ・ web講習に関する質疑応答 	5分
応急手当の実習（主に小児、乳児、新生児に対する方法）	心肺蘇生法	基本的な心肺蘇生法（実技） <ul style="list-style-type: none"> ・ 反応の確認・通報の手順 ・ 胸骨圧迫要領 ・ 気道確保要領 ・ 人工呼吸法 ・ シナリオに対応した心肺蘇生法 	115分
		AEDの使用法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者による使用法の呈示 ・ AEDの実技要領 	
		異物除去法 <p>小児、乳児の区分に応じた異物除去法（背部叩打法、腹部突き上げ法、胸部突き上げ法）</p>	
合計時間			120分

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 60分間を1単位として分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内） ・ 訓練用資器材一式に対して受講者2名以内で講習を実施でき、質を担保できる場合は、応急手当指導員の判断により、講習時間を最大90分に短縮できるものとする。
-----	---

(8) 市民救命士講習 (ケガの手当コース)

項 目		細 則	時 間
応急手当の重要性		<ul style="list-style-type: none"> ・市民救命士の趣旨 ・応急手当の目的 ・応急手当の必要性 ・感染防止の意義と方法 	60分
応急手当の実習	止血法	<ul style="list-style-type: none"> ・直接圧迫法 ・止血帯法 	
	包帯法	<ul style="list-style-type: none"> ・包帯を使った被覆要領 	
	三角巾法	<ul style="list-style-type: none"> ・たたみ三角巾の作り方 ・本結びの要領 ・三角巾を使った固定、被覆要領 	120分
	副子固定法	<ul style="list-style-type: none"> ・副木を使った固定要領 	
合計時間			180分

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・実技講習は受講者2名一組になって相互実習を指導する。 ・60分間を1単位として分割した講習を可能とする。(分割可能期間は概ね1か月以内)
-----	--

(9) 市民救命士講習（上級コース）

1 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生法を、救急車が現場に到着するのに要する時間程度できる。 ・自動体外式除細動器（AED）について理解し、正しく使用できる。 ・異物除去法及び大出血時の止血法を理解できる。 ・傷病者管理法、副子固定法、熱傷の手当、搬送法等を習得する。
2 基本的な実施要領	<ul style="list-style-type: none"> ・実技を主体とした講習とする。 ・指導者1名に対して受講者は10名程度とすることが望ましい。ただし、受講者数及び受講者の応急手当に関する知識・技術の程度によって適宜増減することを妨げない。

項 目		細 則	時 間	
応急手当の重要性		<ul style="list-style-type: none"> ・市民救命士の趣旨 ・応急手当の目的 ・応急手当の必要性 ・感染防止の意義と方法 	15分	
応急手当 の実習	心肺蘇生法	基本的心肺蘇生法（実技）	<ul style="list-style-type: none"> ・反応の確認・通報の手順 ・胸骨圧迫要領 ・気道確保要領 ・人工呼吸法 ・シナリオに対応した心肺蘇生法 	285分
		AEDの使用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDの使用方法 ・指導者による使用法の呈示 ・AEDの実技要領 	
		異物除去法	<ul style="list-style-type: none"> ・成人及び小児・乳児の区分に応じた異物除去法 	
		効果確認	<ul style="list-style-type: none"> ・効果測定 	
	止血法		<ul style="list-style-type: none"> ・直接圧迫法、止血帯法 	
	心肺蘇生法に関する知識の確認		<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験及びシナリオを使用した実技試験 	60分
その他の 応急手当	傷病者管理法	<ul style="list-style-type: none"> ・衣類の緊急解除、保温法、体位管理 	120分	
	応急手当の要領	<ul style="list-style-type: none"> ・包帯法、三角巾法、副子固定法、熱傷の手当法 ・熱中症への対応（予防も含む） ・その他の手当（溺水、頸椎保護等） 		
	搬送法	<ul style="list-style-type: none"> ・搬送の基本、担架搬送法、応急担架作成法 		
合計時間			480分	

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・外傷手当の実技講習は、受講者2名一組になって、相互実習を指導する。 ・60分間を1単位として、4単位を基準に分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内） ・応急手当web講習を利用した分割講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内とし、分割時の実技講習カリキュラムは別表第1第10号で定める）
-----	---

(10) 市民救命士講習（上級コース） 実技講習（web講習利用時）

項 目		細 則	時 間
応急手当の重要性		<ul style="list-style-type: none"> ・ 応急手当の目的・必要性 ・ web講習に関する質疑応答 	5分
応急手当 の実習	心肺蘇生法	基本的心肺蘇生法（実技） <ul style="list-style-type: none"> ・ 反応の確認・通報の手順 ・ 胸骨圧迫要領 ・ 気道確保要領 ・ 人工呼吸法 ・ シナリオに対応した心肺蘇生法 	235分
		AEDの使用方 法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者による使用法の呈示 ・ AEDの実技要領 	
		異物除去法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 成人及び小児・乳児の区分に応じた異物除去法 	
		効果確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 効果測定 	
	止血法		<ul style="list-style-type: none"> ・ 直接圧迫法、止血帯法
心肺蘇生法に関する知識の確認		<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆記試験及びシナリオを使用した実技試験 	60分
その他の 応急手当	傷病者管理法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衣類の緊急解除、保温法、体位管理 	120分
	応急手当の要領	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包帯法、三角巾法、副子固定法、熱傷の手当法 ・ 熱中症への対応（予防も含む） ・ その他の手当（溺水、頸椎保護等） 	
	搬送法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 搬送の基本、担架搬送法、応急担架作成法 	
合計時間			420分

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外傷手当の実技講習は、受講者2名一組になって、相互実習を指導する。 ・ 60分間を1単位として、4単位と3単位に分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内）
-----	--

(11) 救急インストラクター（応急手当普及員）講習（一般受講者対象）

項 目		細 則	時 間	
基礎的な知識	基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・救急インストラクター制度の趣旨と心構え ・救急隊の使命と市民の役割（救命の連鎖）の理解 ・市民と救急隊との連携 ・応急手当の目的及び必要性 	120分	540分
	救命に必要な応急手当の基礎実技	<ul style="list-style-type: none"> ・観察要領、AEDを用いた心肺蘇生法、止血法、感染防止の意義と方法 	240分	
	その他の応急手当の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・傷病者管理法、搬送法、外傷の手当法 	180分	
指導要領	基礎医学	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸・循環器系等の解剖・生理学 ・感染防止の意義と方法 	120分	780分
	資器材の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・保守管理（分解・消毒） 	60分	
	指導技法	<ul style="list-style-type: none"> ・レスンプランの作成要領 ・展示要領 ・指導要領 	120分	
	救命に必要な応急手当の指導要領	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・通報の指導要領 ・胸骨圧迫の指導要領 ・気道確保の指導要領 ・人工呼吸法の指導要領 ・心肺蘇生法の指導要領（成人・小児・乳児に対する1人法及び2人法） ・AEDを用いた心肺蘇生法の指導要領 ・異物除去の指導要領 	240分	
		<ul style="list-style-type: none"> ・止血法の指導要領（直接圧迫止血法・止血帯法） 	60分	
		<ul style="list-style-type: none"> ・搬送法、応急担架作成要領 	60分	
	各種応急手当の組み合わせ・応用の指導要領	<ul style="list-style-type: none"> ・想定課題に基づく応用実習 ・体位管理要領 	120分	
応対のへ疑質るす関に容内導指・定測果効			120分	
合計時間			1440分	

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・60分間を1単位として、8単位を基準に分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内）
-----	---

(12) 救急インストラクター（応急手当普及員）講習（養護教諭等対象）

項 目		細 則	時 間	
基礎的な知識	基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・救急インストラクター制度の趣旨と心構え ・救急隊の使命と市民の役割（救命の連鎖）の理解 ・市民と救急隊との連携 ・応急手当の目的及び必要性 	120分	540分
	救命に必要な応急手当の基礎実技	<ul style="list-style-type: none"> ・観察要領、AEDを用いた心肺蘇生法、止血法、感染防止の意義と方法 	240分	
	その他の応急手当の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・傷病者管理法、搬送法、外傷の手当法 	180分	
指導要領	基礎医学	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸・循環器系等の解剖・生理学 ・感染防止の意義と方法 	60分	780分
	資器材の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・保守管理（分解・消毒） 	30分	
	指導技法	<ul style="list-style-type: none"> ・レスンプランの作成要領 ・展示要領 ・指導要領 	90分	
	救命に必要な応急手当の指導要領	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・通報の指導要領 ・胸骨圧迫の指導要領 ・気道確保の指導要領 ・人工呼吸法の指導要領 ・心肺蘇生法の指導要領（成人・小児・乳児に対する1人法及び2人法） ・AEDを用いた心肺蘇生法の指導要領 ・異物除去の指導要領 	120分	
		<ul style="list-style-type: none"> ・止血法の指導要領（直接圧迫止血法・止血帯法） 	30分	
		<ul style="list-style-type: none"> ・搬送法、応急担架作成要領 	30分	
	各種応急手当の組み合わせ・応用の指導要領	<ul style="list-style-type: none"> ・想定課題に基づく応用実習 ・体位管理要領 	120分	
応対のへ疑質るす関に容内導指・定測果効			120分	
合計時間			960分	

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・現に養護教諭の職にある者を対象とする。 ・60分間を1単位として、8単位を基準に分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内）
-----	---

(13) 応急手当指導員講習 I

項 目		細 則	時 間	
指導 要領	指導技術	<ul style="list-style-type: none"> ・市民救命士制度の趣旨 ・救命の連鎖の理解 ・感染防止の意義と方法 ・講習指導員の役割・心構え ・展示要領 ・指導要領 	60分	435分
	救命に必要な応急手当 の指導要領	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・通報の指導要領 ・胸骨圧迫の指導要領 ・気道確保の指導要領 ・人工呼吸法の指導要領 ・心肺蘇生法の指導要領 (成人・小児・乳児に対する1人法及び 2人法) ・AEDを用いた心肺蘇生法の指導要領 ・異物除去要領 	180分	
		<ul style="list-style-type: none"> ・止血法の指導要領 (直接圧迫止血 法・止血帯法) 	60分	
	その他の応急手当の指 導要領	<ul style="list-style-type: none"> ・傷病者管理法・搬送法の指導要領 ・外傷の手当の指導要領 	90分	
	各種手当の組み合わ せ・応用の指導要領	<ul style="list-style-type: none"> ・想定課題に基づく応用実習 ・体位管理の指導法 	45分	
応対のへ疑質るす関に容内導指・定測果効			45分	
合計時間			480分	